
吹田市下水道事業会計

決算の概要

令和4年度（2022年度）

概況

(1) 下水道使用料に直結する有収水量については、前年度比51万1,719m³ (1.2%) 減の4,261万8,713m³となりました。

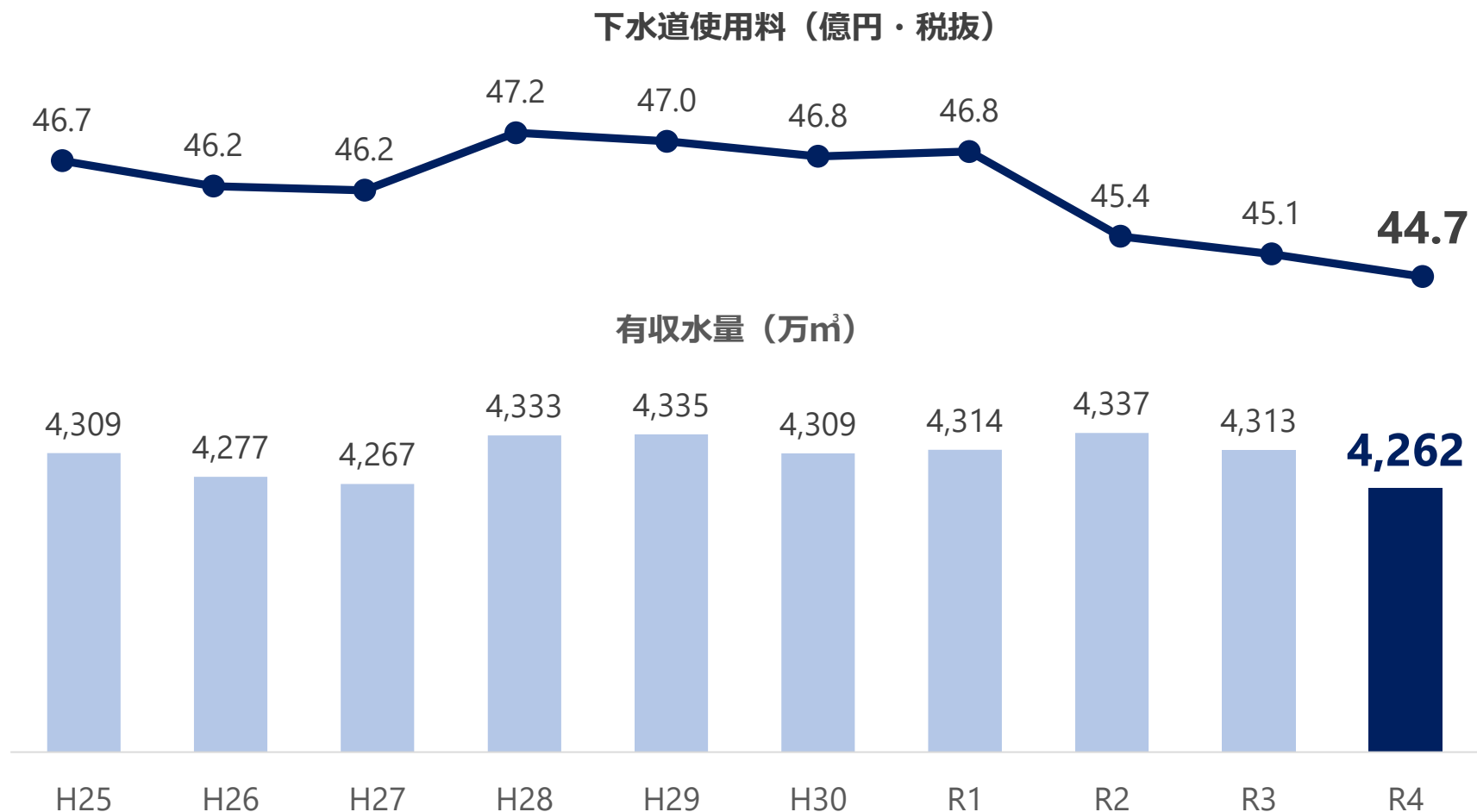
(2) 経営状況については、10億5,775万614円 (税抜) の純利益を計上しました。

(3) 下水道施設の設備投資については、下記のとおり執行しました。

(税込)

ア	管渠建設改良費	21億7,745万6,932円
イ	ポンプ場建設改良費	7,737万5,000円
ウ	処理場建設改良費	3億9,280万7,209円
エ	流域下水道建設費負担金	7,941万8,931円

下水道使用料と有収水量の推移

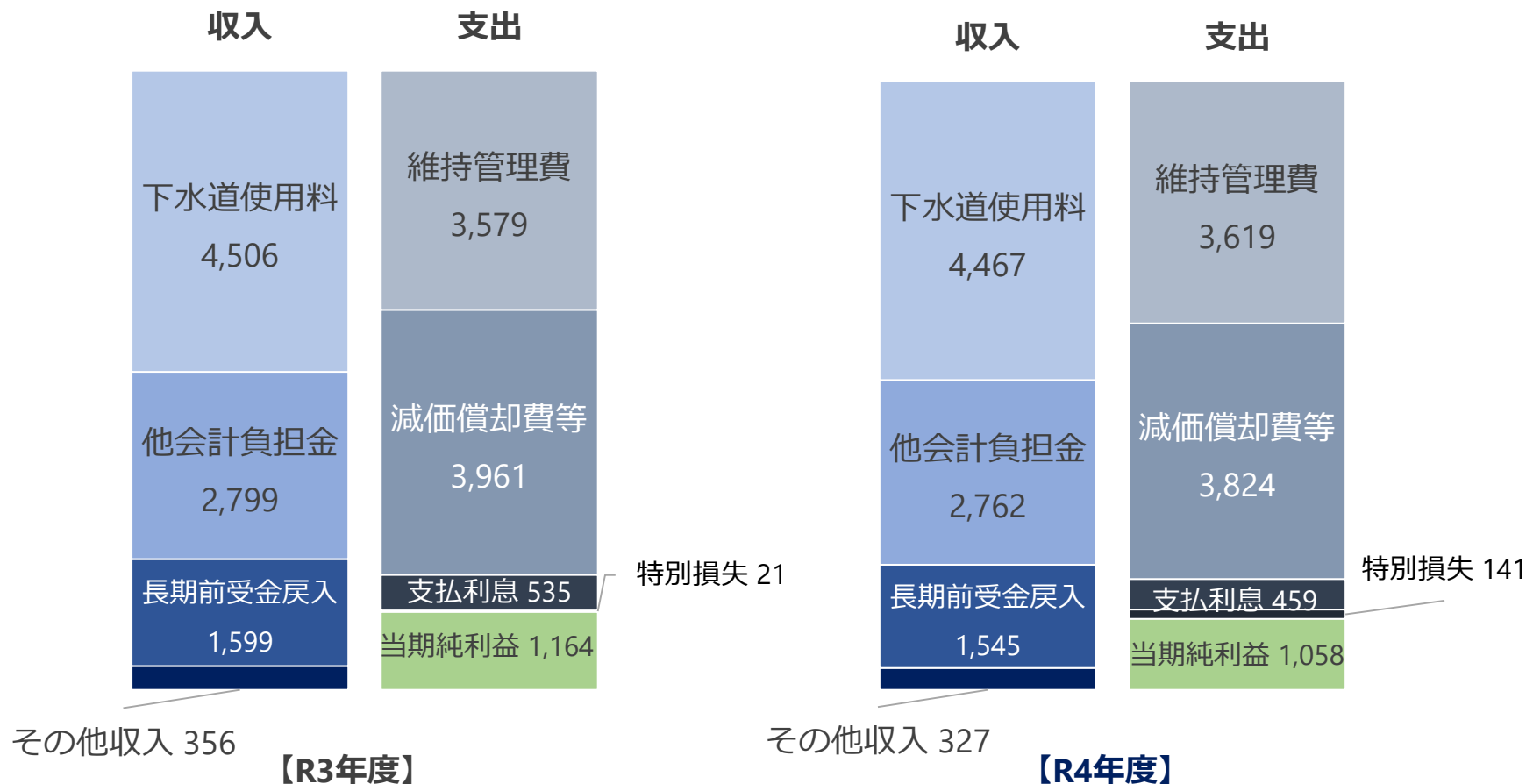


令和4年度については、大口使用者の使用量の減少などにより、有収水量及び下水道使用料が減少しています。

収益的収支 (損益計算書)

下水道サービスの提供に関する収支状況
(経営成績)

(百万円・税抜)

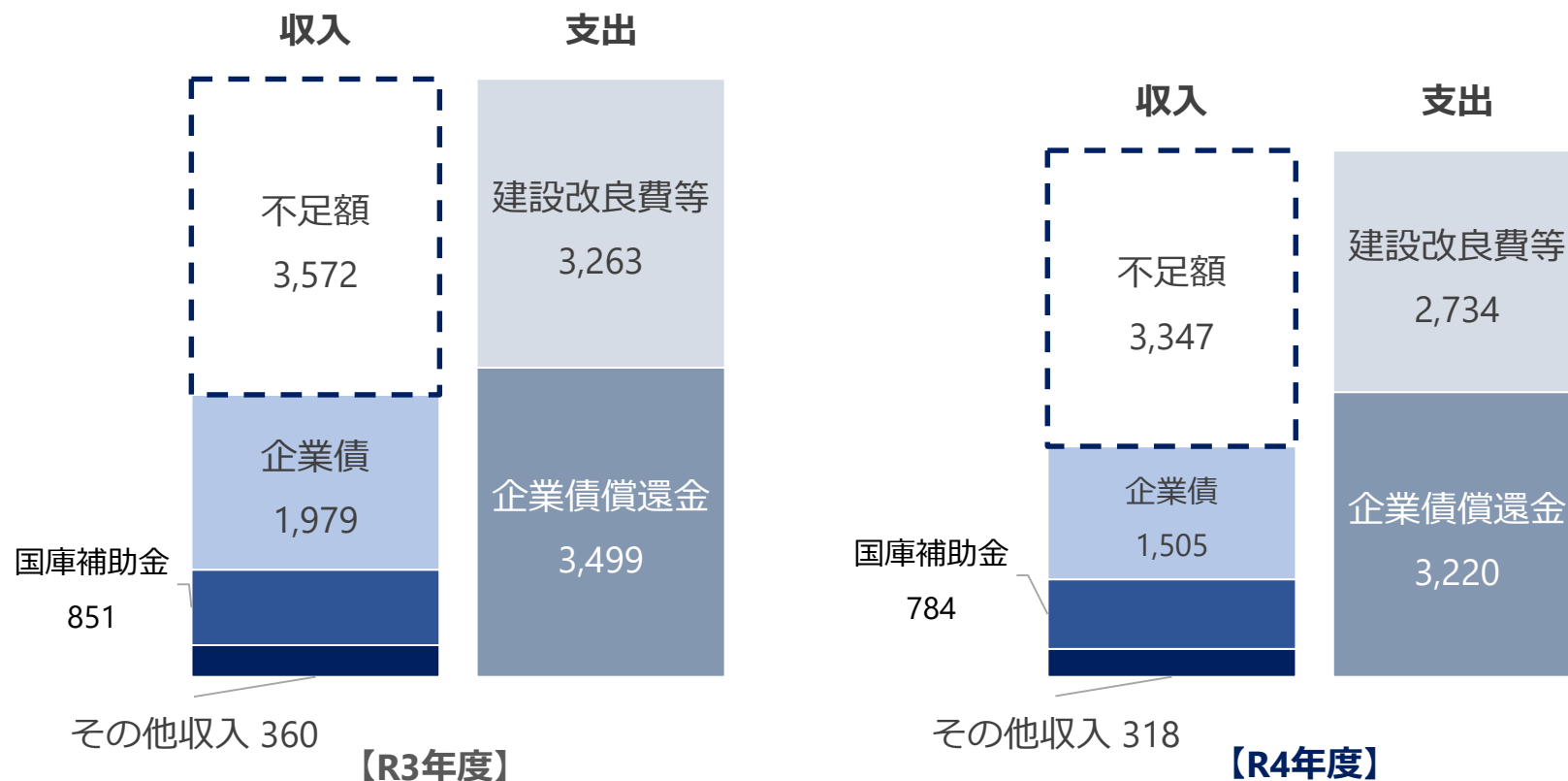


(1) 収入 : 91億 99万5,624円	前年度比	1億5,958万7,801円 (1.7%)	減
(2) 支出 : 80億4,324万5,010円	同	5,297万5,462円 (0.7%)	減
(3) 純利益 : 10億5,775万 614円	同	1億 661万2,339円 (9.2%)	減

資本的収支

下水道施設の設備投資に関する収支状況

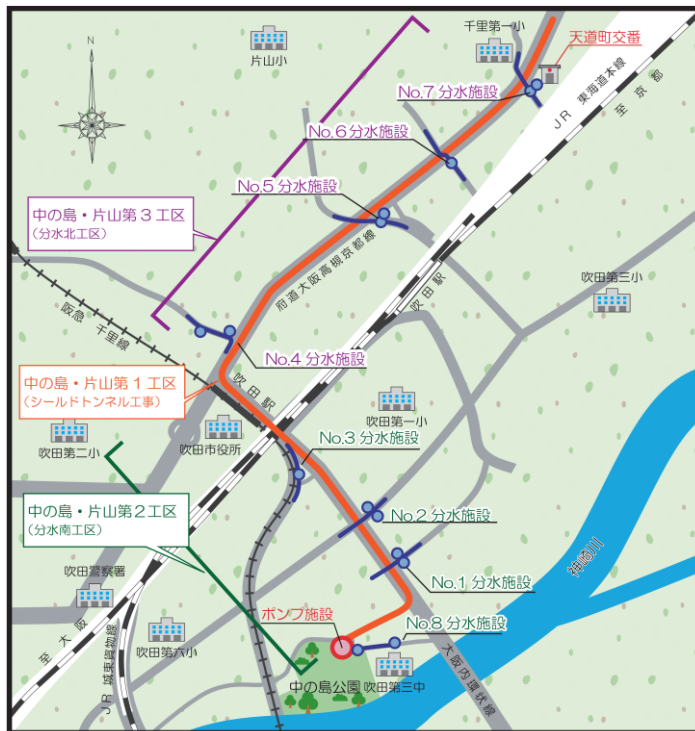
(百万円・税込)



- (1) 収入：26億 748万9,683円
- (2) 支出：59億5,400万6,731円
- (3) 不足額：33億4,651万7,048円

※損益勘定留保資金などにより補てん

吹田市公共下水道事業 雨水レベルアップ整備工事中の島・片山工区



工事名	概要	工期
中の島・片山第1工区	雨水レベルアップ管整備 Φ2,800mm、L = 2,700m	H28.9.29 ~ R3.9.30 整備済み
第2工区	分水施設4か所 (No.4、5、6、7)	R 2.5.29 ~ R6.3.15
第3工区	分水施設4か所 (No.1、2、3、8)	R 2.5.29 ~ R5.11.22

雨水レベルアップ整備は市域南部の浸水を防ぐため、雨水レベルアップ管と分水施設を整備します。中の島・片山工区では、中の島公園から天道町交番までの雨水レベルアップ管が完成し、現在分水施設を整備しており、令和6年度からの供用開始を予定しています。

雨水レベルアップ管



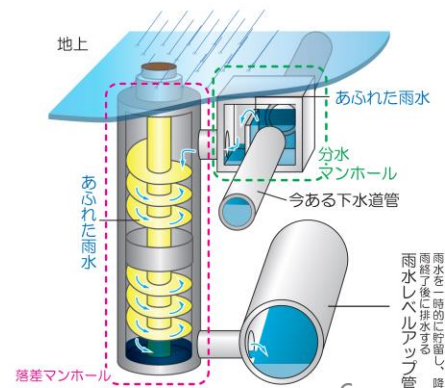
No.4分水施設



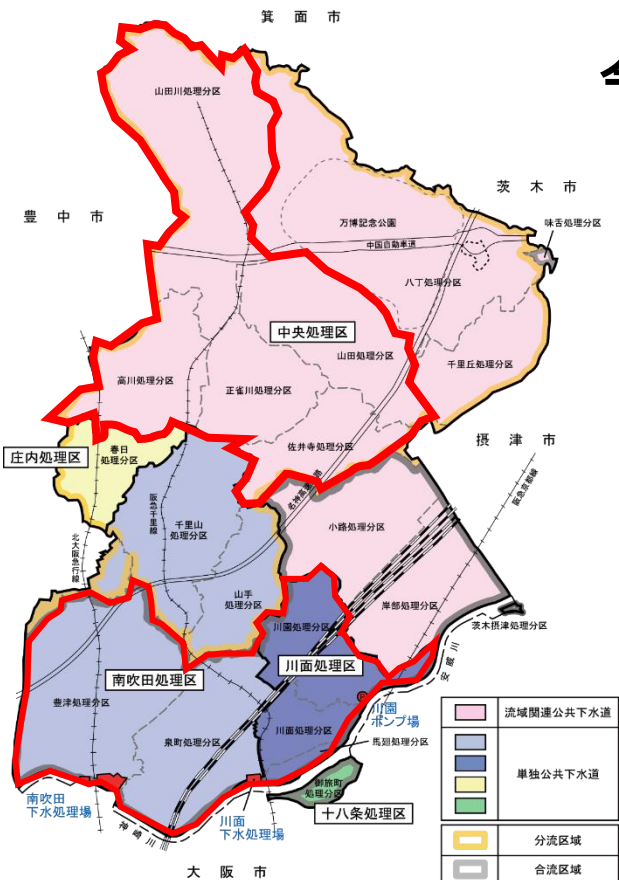
No.8分水施設



分水施設 (落差マンホール+分水マンホール)



下水道ストックマネジメント計画に基づく管路老朽化対策工事（令和4年度～）



□：令和4年度 管路老朽化対策工事対象区域

改築工事位置図

令和4年度 全5工区

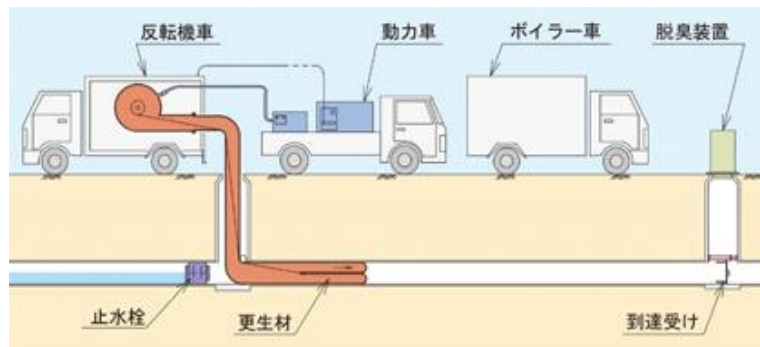
実施延長：2.7km（管更生工事/布設替え工事）

対象管径：Φ250mm～Φ500mm

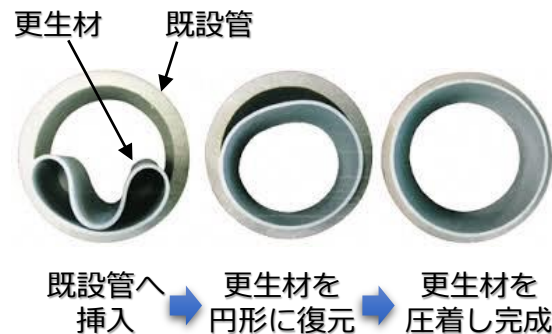
場所：位置図参照

下水道ストックマネジメント計画に基づき、市内全域の下水管路を対象に、これまでの「発生対応型」から「予防保全型」の維持管理へシフトしていくとともに、計画的な改築更新を進めています。

改築工事では、道路掘削して管路を布設替える「布設替え工事」と、道路掘削を伴わずマンホールから材料を挿入し管内部を更新する「管更生工事」（反転工法・形成工法）等を行っています。



管更生工事イメージ図
（反転工法の例）



既設管内部の更生イメージ図
（形成工法の例）

吹田市公共下水道事業 管路耐震工事（令和3年度～令和10年度：広域緊急交通路）

令和4年度 全4工区

実施延長：0.7km（管更生工事：製管工法・反転工法）

対象管径：Φ300～Φ1650mm、

□1500mm×1200mm

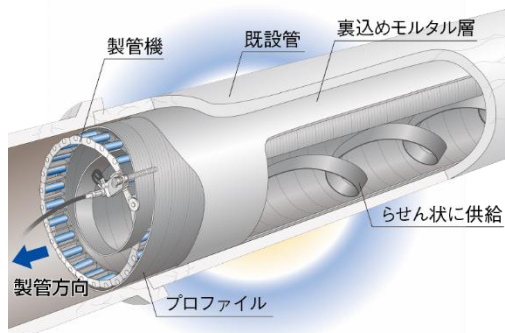
場 所：新御堂筋、中国自動車道

吹田市下水道総合地震対策計画（平成30年度策定）に基づき、緊急輸送路のうち、広域緊急交通路下に布設されている管路を優先し、耐震診断・詳細設計・耐震工事等の地震対策を行っています。

広域緊急交通路：名神高速道路、中国自動車道、新御堂筋
大阪中央環状線、大阪高槻京都線



管路耐震工事対象箇所位置図



管更生工事イメージ図
（製管工法の例）



管更生工事の施工中・施工後の状況写真
（製管工法の例）

吹田市南吹田下水処理場汚泥前処理設備工事 (令和3年度～令和4年度)



機械設備工事



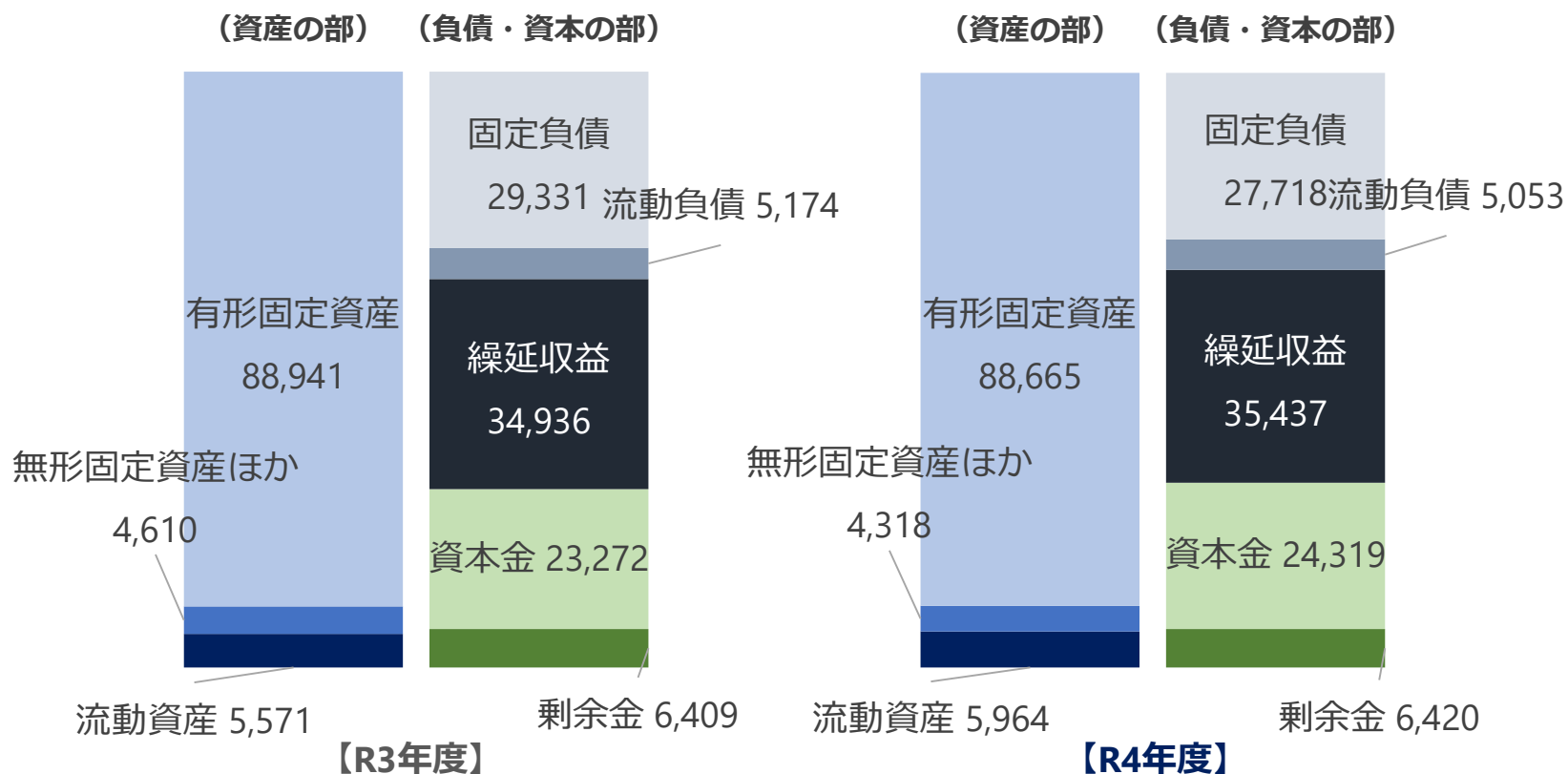
電気設備工事

水処理工程で発生した汚泥を処理する前に、し渣（ごみ）等を除去する設備（平成12年（2000年）設置）を吹田市下水道ストックマネジメント計画に基づき更新しました。

貸借対照表

期末時点の保有財産の状態（資金の調達状況、運用状況）

（百万円）

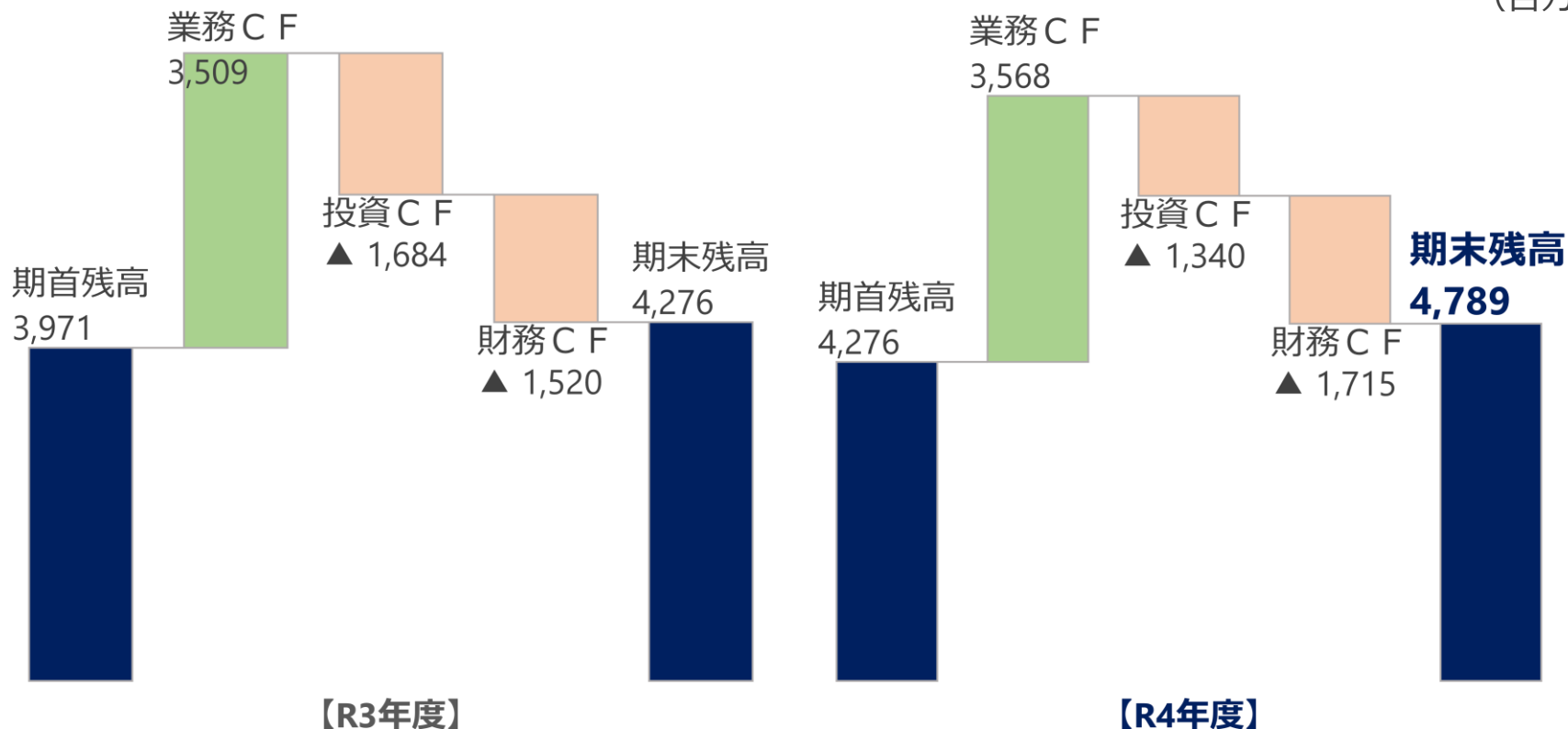


期末時点における資産、負債及び資本の状態を表したものです。
下水道管渠や処理施設を有する下水道事業では、有形固定資産の割合が高くなります。

キャッシュ・フロー計算書

現金の流れ

(百万円)

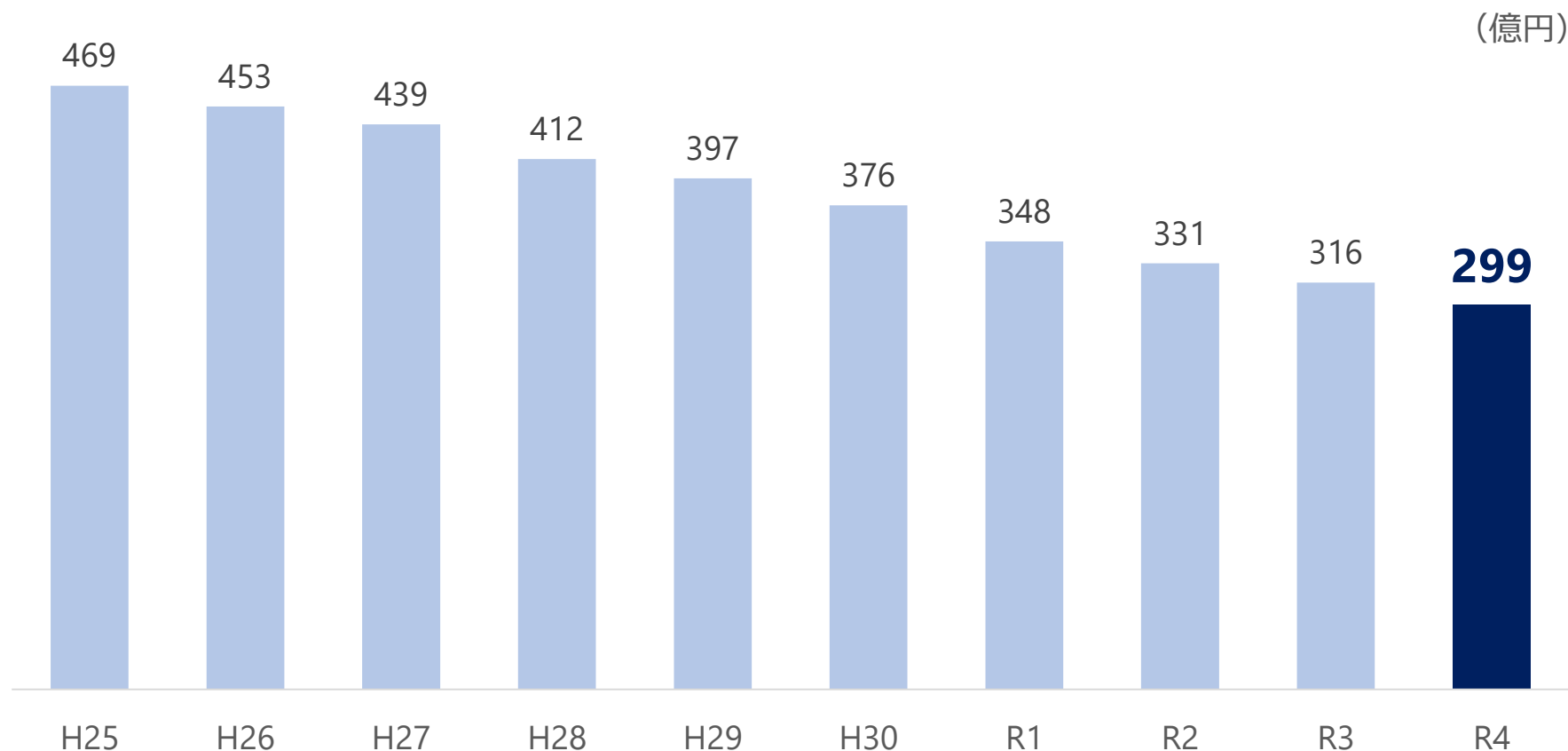


事業年度における現金の収入・支出（資金の流れ）を表したものです。
業務活動による資金の増が、投資活動や財務活動による資金の減を上回ったため、期末残高は前年度末と比較して増加しました。

- (1) 業務C F：本業（下水道の維持管理）の活動による現金の増減
- (2) 投資C F：投資（下水道施設の新設や改築など）による現金の増減
- (3) 財務C F：資金調達（企業債の発行）と返済による現金の増減

企業債残高

設備投資の財源として借り入れた借金残高



比較的早期に事業に着手したこともあり、近年は減少傾向にありますが、老朽化した施設の更新や浸水対策などへの投資に伴い、今後増加することが懸念されます。